式　辞

今年の早春は、まさに「春は名のみの風の寒さや」を体感する日々でしたが、明日は啓蟄、暦の上でも生命の息吹が感じられるようになってきたこの佳き日、令和六年度長野県松本深志高等学校卒業証書授与式を挙行する運びとなりましたこと、まことに喜ばしく、日頃から本校に対しまして格段のご支援・ご高配を頂いております多くの皆様に衷心より御礼を申し上げます。

ただいま、全日制普通科三百十名に卒業証書を授与いたしました。

本日ご列席の保護者の皆様、ご家族の皆様には、お子様のご卒業、まことにおめでとうございます。高等学校の全課程を終え、立派に成長されたお子様の姿をご覧になり、併せて入学時の様子や在学中のこと、場合によっては生まれた時のことなども思い起こされる中、日頃のご苦労ご訓育がここに実り、今日この日を迎えられる感慨もひとしおのことと拝察いたします。

卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。本日皆さんは、この伝統ある松本深志高校における三年間の全日制課程を修了し、ご卒業の運びとなりました。まずは、皆さんのこの三年間におけるたゆまぬ努力と精進を褒め称え、将来に向けてのエールを送りたいと思います。皆さんにとって、この三年間は必ずしも順風満帆ではなかったかもしれません。幾多の悩みや失敗、挫折や困難、そして我慢を強いられる場面や時にはあきらめの念を抱いたこともあったと想像します。しかしながら、皆さんが深志でのこの三年間で経験し培ってきた、自ら課題を解決していく力や、その過程において仲間と調整し協働する能力、興味・関心・好きなことに対して追究し続けたいと感じたことなどは、これからのVUCAの時代と呼ばれる先行き不透明な時代において、生きる力として身についたであろうことを確信しています。そしてこの三年間においてそうした学びを続けることができたのも、いかなる時にも皆さんのことを絶えず気遣いながら支えてくださったご家族や周囲の方々がいたことを忘れてはなりません。無償の愛情でここまで育ててくださったご家族に、そしてお世話になった周囲の方々、仲間たちに、ぜひとも本日の喜びと、心よりの感謝の気持ちを伝えてもらいたいと思います。

さて、本日は二つのことをお話しさせていただきたいと思います。まず、皆さんは入学式の時のことを覚えていらっしゃいますか。私は皆さんとともに本校に赴任して参りましたので、皆さんにあてた入学式の式辞が私から深志高校生への最初のメッセージだったのでした。その中で、哲学者の池田晶子さんの著書「十四歳からの哲学」について触れさせていただきました。これから皆さんは「いったい自分はどのように生きて行けば良いんだろう」とか、「自分はどうしてこんなに弱いんだろう」、などと多くの悩みを抱えるに違いありません。そんな若者たちに対して、池田さんは「全然訳がわからなくなりましたっていうなら、君、大成功だよ。わからなくなったからこそ、考えて行けるんだ、大丈夫、考

えて行けるよ。だって君には考える精神があるから。」と述べています。考えた結果、たとえ答えが導き出せなくても、ある種の「手応え」、「生きがい」を感じ、さらに新たな課題に取り組んで、「手応え」や「生きがい」を感じる。その中で、私たちの中で何かが変わり始めるんだということを池田さんはおっしゃっています。この三年間の皆さんは、様々な場面でこのような考えることの試行錯誤を経験されたことと思います。しかし逆に、早く正しい解答を導き出すこと、できるだけ余計なことを省いて、合理的に無駄なく正しい解答にたどり着く方法にとらわれたことは無かったでしょうか。生産コストを重視し、多くの利益を確保しようとするときは、その方法は正しいのだと思います。しかしこれからの自分の人生、そしてこれからの学びは生産性ではありません。課題解決に向けて計画、実行、評価、改善を積み重ねていくことが重要になってきます。それが深志高校での授業や探究活動における学び、さらには部活、生徒会等の様々な行事だったのではないでしょうか。本日卒業するみなさんに、そして在校生の皆さんにもお伝えしたいと思います。悩み考える中で成長している自分を信じ、短絡的ではない課題解決に挑む中に生きがいや活路を見いだせることができるということ、さらに人生は回り道であっても、生産性が上がらなくても、その過程が生きる力の醸成につながっているんだということを、私は確信しています。

もう一つ、とんぼ祭記念公演についてお話ししたいと思います。昭和の記録を見ると、かつて秋にとんぼ祭が行われていたころ、とんぼ祭記念公演は十二月に実施されていました。その頃も現在と同様合同協議会の主催で、当時も今も講師の選定や交渉等すべて合同協議会が行っています。文化祭が終わって、文化系クラブの活動が一段落したのち、とんぼ祭の最終行事として深志高校の知の探究を生徒自身の手で昇華させる、まさに深志高校らしい行事だと思います。思考の機会を生徒自身が伝統的に創出してきた学校なんて、県内他にはありません。そしてその思考の機会が、自分の興味関心のエリア以外のものであることが重要であると私は思います。これからの人生においても、自分が現在得意としている、あるいは目指しているエリア以外の知の探究に積極的に参加をしてみてください。自分の新たな人生の方向性が見つかるかもしれませんし、目指している分野に対する閉塞感を打ち破ることができるかもしれません。かつてとんぼ祭記念講演で、哲学者の内田樹先生がおっしゃいました。「進路が確定していないことで悩んでいる皆さん、それはラッキーだよ」と。人生の方向性が確定していないからこそ、様々な本を読み、文化に触れ、人の話を聞き、海外に行ってみたいと思う。そうした経験の中で心が豊かになり、自分も充実し、人の役に立てる何かを模索するのだと思います。これは進路がある程度確定している皆さんにとっても同じことだと思います。興味関心のない分野からの刺激の中で、人間の幅と豊かさを深めていただきたいと思います。そして、今年、とんぼ祭記念講演にいらっしゃった谷川彰英先生の言葉をもう一度皆さんに送りたいと思います。「将来、偉い人になっても構いませんが、ぜひ社会の幸福空間を考えられる人になってください。」

さて、本日、みなさんにはたくさんの「卒業おめでとう」の言葉が贈られると思います。様々な活動に前向きに取り組み、今日の卒業という舞台に立つ、みなさんのこれまでの精進、努力に対する賞賛の言葉でありますが、同時に、これからの新しい未来を創っていくみなさんへの大いなる期待と激励の言葉でもあります。併せて、成人でもある皆さんは、様々な契約、消費者としての意思決定を、自らの責任で行うこととなります。自立するということは、自ら考え、周りの意見を聞き、判断していく力が今まで以上に求められるでしょう。多くの思い通りにならないことがあると思われますが、どうぞたくましく乗り越えていって下さい。周囲への感謝を忘れず、自分自身にも敬意を払い、「今を精一杯生きること」を続け、「個人と社会のウェルビーィング」を目指していってほしいと思っています。

卒業生のみなさんの人生に幸多かれと祈り、本日ご列席の皆様に感謝を申し上げて、式辞といたします。

令和七年三月四日

長野県松本深志高等学校長

石川　裕之